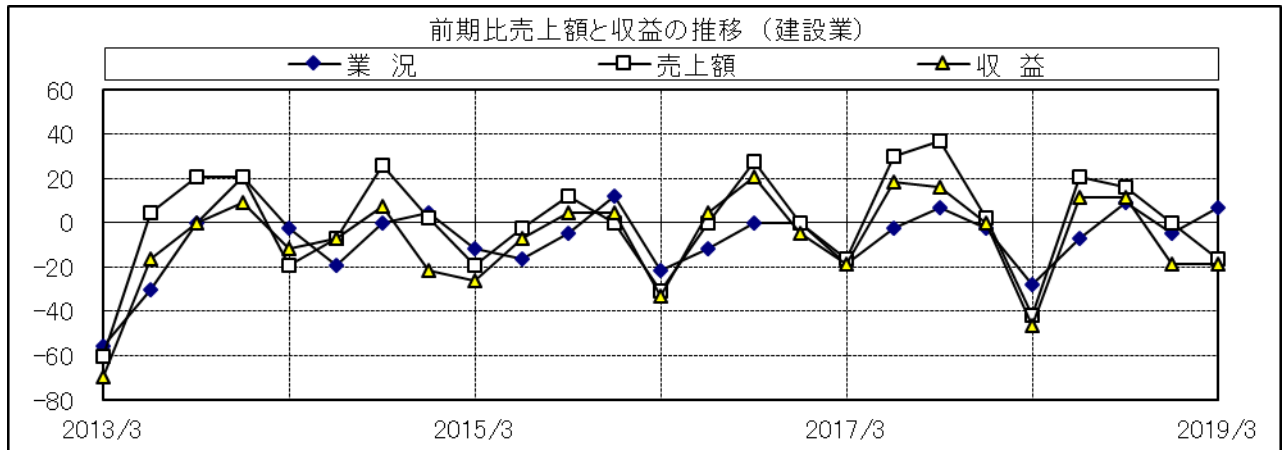


建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	9.3	-4.6	7.0	18.5
売上額	16.3	0.0	-16.2	21.0
収 益	11.6	-18.7	-18.6	11.7

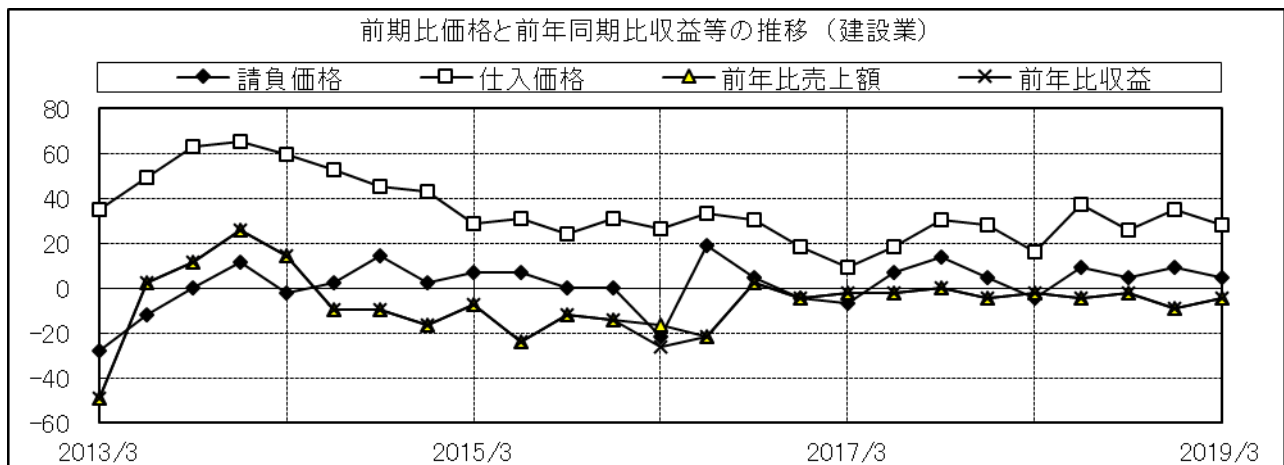
今期の業況判断 D. I. は 7.0 で、前期比 11.6 ポイント上昇、前年(△27.9)比 34.9 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、浦河が最も高く、えりも、様似、三石、静内と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、△16.2 で、前期比 16.2 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△18.6 で、前期比 0.1 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
請負価格	4.8	9.4	4.7	13.9
仕入価格	25.6	35.0	27.9	25.7

請負価格判断 D. I. は 4.7 で、前期比 4.7 ポイント下降、前年(△4.7)比 9.4 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 27.9 で、前期比 7.1 ポイント下降、前年(16.3)比 11.6 ポイントの上昇となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	0.0	-2.4	-9.3	9.3
人手状況	-14.0	-37.2	-23.3	-30.3

残業時間判断 D. I. は△9.3 と前期比 6.9 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。
人手過不足判断 D. I. は△23.3 と、前期比 13.9 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

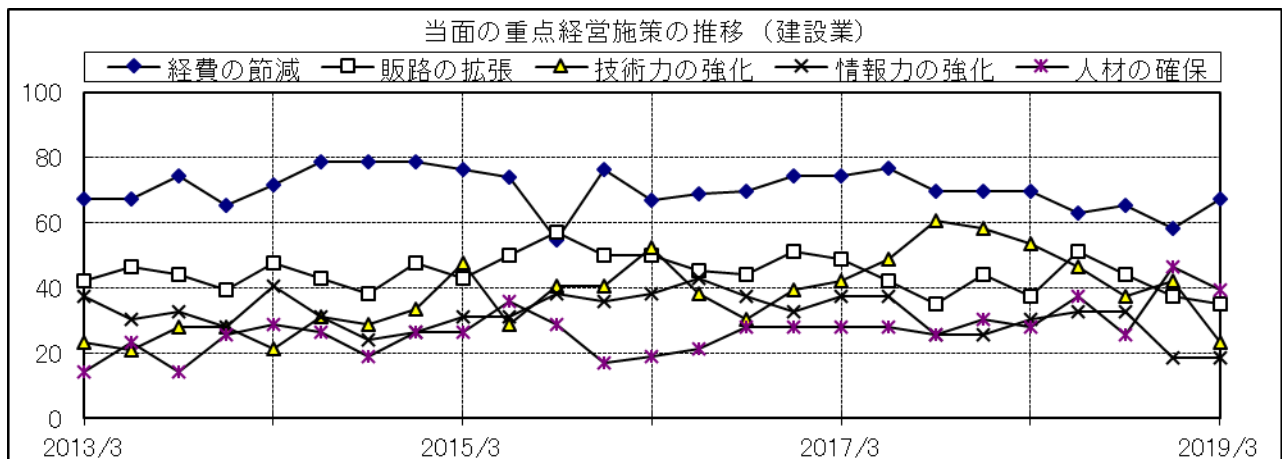
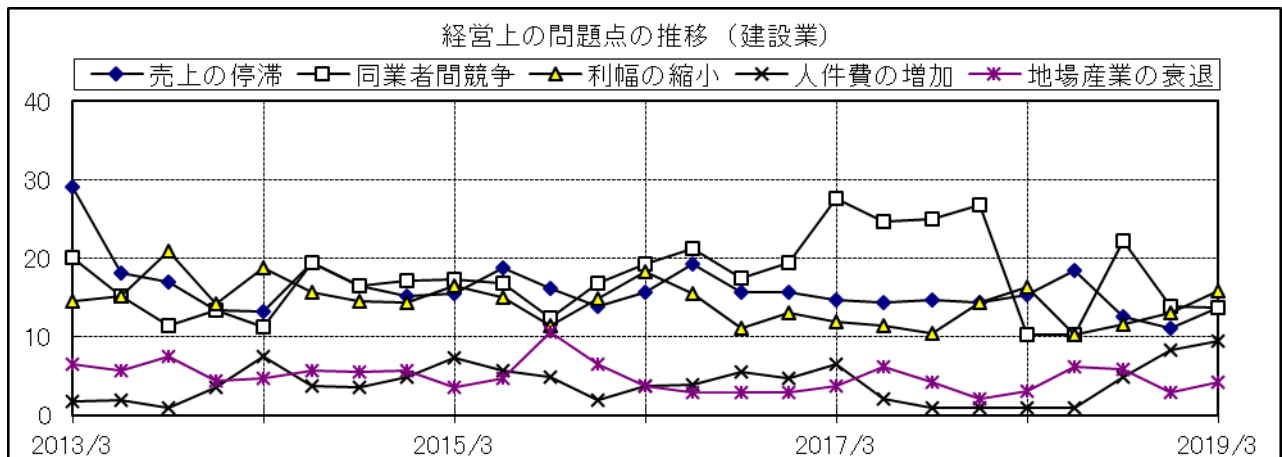
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 4.7$ で、前期($\Delta 7.0$)比2.3ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は14.0で、前期(18.6)比4.6ポイント下降した。設備投資は、前期8社に対し、6社の実施となった。来期の設備投資は、8社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「利幅縮小」15.8%が最も多く、「売上停滞減少」・「同業者競争」13.7%、「人手不足」12.6%、「材料価格上昇」・「人件費増加」9.5%、「下請確保難」6.3%、「大手企業競争」5.3%、「地場産業衰退」4.2%、「諸経費増加」・「技術力不足」・「天候不順」2.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が67.4%と最も多く、「人材確保」39.5%、「販路拡大」34.9%、「技術力強化」23.3%、「情報力強化」18.6%、「労働条件改善」11.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は18.5と、今期比11.5ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は21.0と、今期比37.2ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は11.7と、今期比30.3ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D. I. は13.9と、今期比9.2ポイントの上昇を見通している。

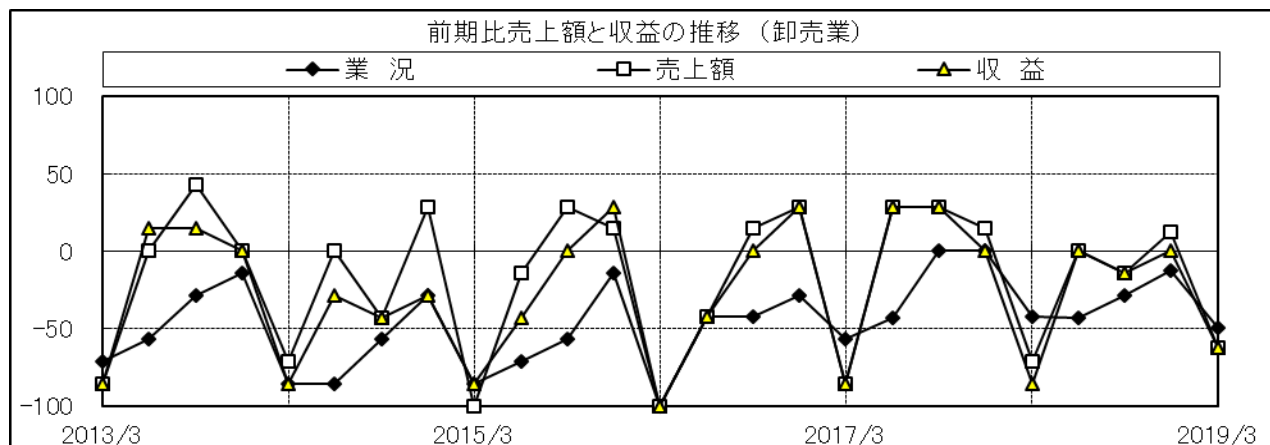
予想仕入価格判断D. I. は25.7と、今期比2.2ポイントの下降を見通している。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-28.6	-12.5	-50.0	-37.5
売上額	-14.3	12.5	-62.5	-37.5
収 益	-14.3	0.0	-62.5	-37.5

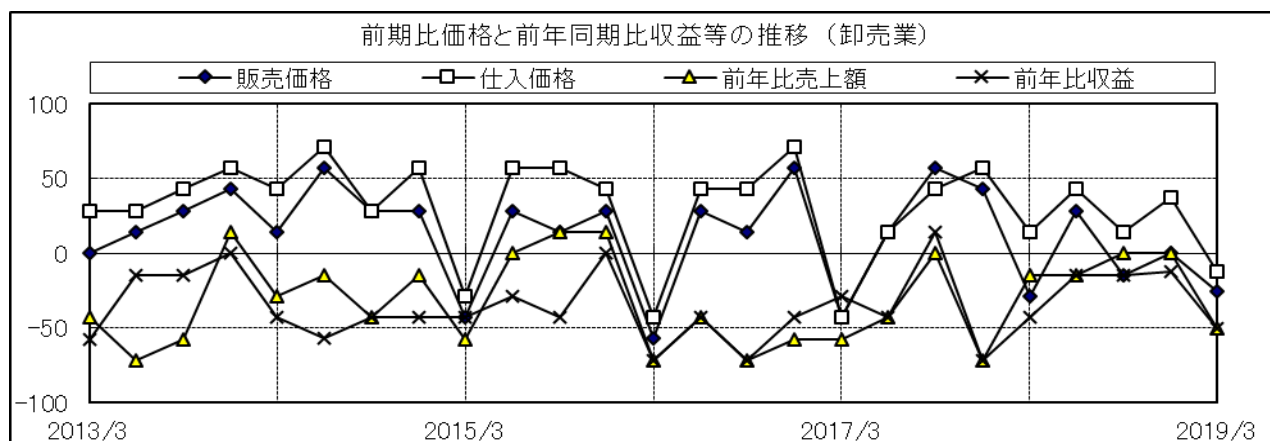
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 50.0$ で、前期比 37.5 ポイント下降、前年($\Delta 42.8$)比 7.2 ポイント下降した。地区別の水準は、浦河・様似地区は下降、静内地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は $\Delta 62.5$ で、前期比 75.0 ポイント下降。収益判断 D. I. は $\Delta 62.5$ で、前期比 62.5 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	-14.3	0.0	-25.0	12.5
仕入価格	14.3	37.5	-12.5	50.0

販売価格判断 D. I. は $\Delta 25.0$ で、前期比 25.0 ポイント下降、前年($\Delta 28.6$)比 3.6 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は $\Delta 12.5$ で、前期比 50.0 ポイント下降、前年(14.3)比 26.8 ポイント下降した。業種別では、水産業、食品業の販売、仕入価格はともに下降している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	0.0	12.5	-12.5	0.0
人手状況	-14.3	-25.0	-12.5	-12.5

残業時間判断 D. I. は $\Delta 12.5$ で、前期比 25.0 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 12.5$ で前期比 12.5 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

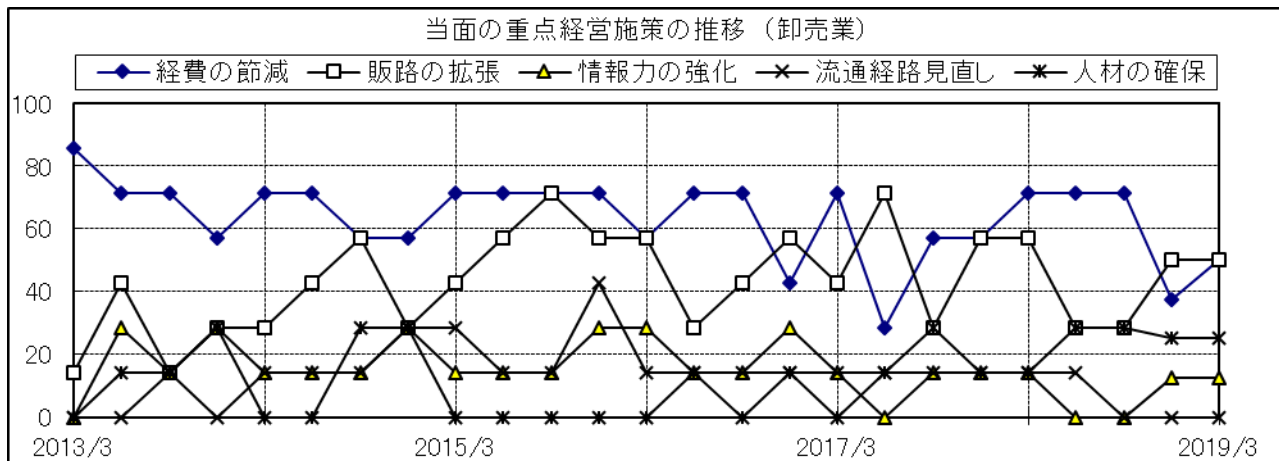
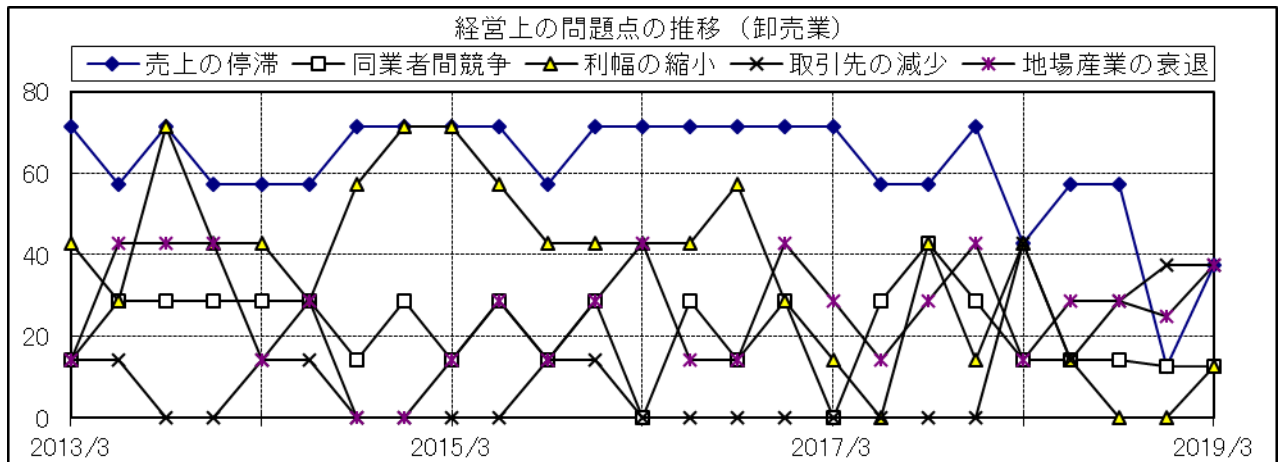
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 12.5$ で、前期($\Delta 12.5$)と同水準となった。

設備実施企業割合は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。設備投資は、前期0社に対し、実施企業は0社。来期の設備投資予定は2社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「取引先減少」・「地場産業衰退」が37.5%と最も多く、「店舗老朽化」・「天候不順」25.0%、「同業者競合」・「輸入製品競合」・「流通経路変化競合」・「利幅縮小」・「販売商品不足」・「人件費増加」・「諸経費増加」12.5%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」・「販路拡大」が50.0%と最も多く、「人材確保」・「不動産有効活用」25.0%、「品揃え充実」・「情報力強化」・「新事業開始」・「パート化」12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 37.5$ と、今期比12.5ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 37.5$ と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 37.5$ と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は12.5と、今期比37.5ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は50.0と、今期比62.5ポイントの上昇を見通している。